

三律旋系混合旋法

二律旋系混合旋法

三呂律混合旋法

合音階

は(1)2の混

歌唱法弾法

及崩其他の

吟(地)変調

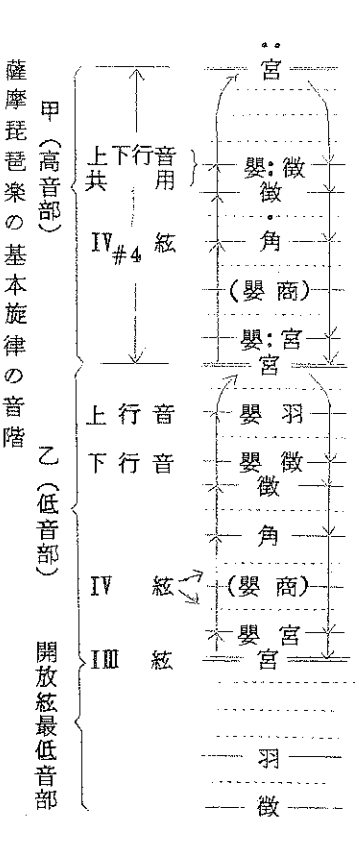
中干変調

三呂律混合旋法

法及弾は呂

吟替の歌唱

階(律)の混合音



○薩摩琵琶の音階、旋法図表

二律旋系、陰旋法(都節音階)

合理的に技を磨きましょう(七)

楽理を学びながら

音門義則

機 琵琶

京 絃

第二四五号 京絃社

右の様にその基本旋律の音階は都節音階即陰旋法であります。語りものでありますので臨時音も時には出て来ます。変調は明かに陽旋法であり、崩は拍節の伴う陰陽混合旋法であります。下段の高等弾法の謡出、中干落には途中にて変調して陰旋法の音階にない嬰商、嬰角等の臨時音が用いられます。図表二律旋系混合旋法、(2)参照

語りもの、音階の種類を発表するには、先づその旋律を採譜し、これを分析調査して、その音階を発表するのであります。語りもの、その旋律を五線譜に採譜することは厄介な仕事でありまして、昔、東京音楽学校で清元常盤津でしたかを採譜するのに、太夫に語ってもらった。その次の日に再度同じところを語ってもらって前回の採譜と比べて違っている、何回やってもやるたびに違っているので太夫にどれがほんとうなのかと採譜者が困って質問したところ、どれもほんとうだ、との回答で全部採譜できず中断したとのエピソードが残っております。私は太夫が云ったことは真実であるとして理解できますが、洋楽の教養しかない採譜者には無理からぬこと、推察いたします。

琵琶も同じく語りものであり、その採譜はなかなか骨の折れる作業であります。私は先年、東京芸術大学音楽部大学院にて、「城山」の一曲を五線譜に採りました。が、週二時間間の授業で、これをまとめあげるのに三ヶ月位かかりました。私は薩摩琵琶の音階の研究

テレビ、ラヂオ 九月十二日夕五時NHK 陽江、兼子旭昭衣川。九月二十六日同時に柴田田舎の浦。十月十日同時に石坂鶴明白虎隊。水藤五郎小督(大紋藤巻旭陽)各氏放送。又九月十六日午後三時朝日テレビで平山万佐子女史「川中島」の一節と洋楽併演「ラブ」を放映

筑前琵琶旭会 十月十九、二十両日福山全国大会 市民会館 (次号詳報)

鉦水会 十月二十日逗子市立図書館心流演奏会 館ホール (次号詳報)

正絃会 十月二十日東京銀座交詢社秋季演奏会 ホール (次号詳報)

(予告)

○錦心祭一水会全国大会 十一月一日(金)午前十時東京銀座ガスホール。東京本部の外金国三十七支部の代表出演。

○京都琵琶協会十一月定期茶話会 十一月三日(日)午後一時会員田中鵬水氏宅(下京区八条通西大路西入上ル、電話三三三〇三五一番)。欠席者は事前に御連絡下さい。

○京都琵琶協会秋季演奏会 十一月十七日(日)正午京都東山安井金比羅宮会館。協会員の外東京、新潟、大阪の名手協賛出演。

○彦根旭城会演奏会 十一月十七日(日)午後一時彦根市民会館。主催林田旭城女史。会員の外名古屋その他の名手協賛出演。

○大和流琵琶吟演奏会 十一月二十三日(休)午後一時高槻市富田公民館。主催家元山崎光楳女史

○日本琵琶振興会月例親睦研究会 十一月二十四日(日)午後一時東京新宿洲鳳会館。主催鈴木流泉氏。

○赤心流琵琶秋季演奏会 十一月三十日(日)午後一時静岡市駿府町婦人会館。主催森鶴翁氏。東西の名手多数協賛出演。

(訂正)

京絃十月号の巻頭及各頁上部欄外に二四三号とあるは二四四号の誤植につき訂正します。

あ 菊香薫る爽秋の好季、同好各位の御健康を慶祝申上げる。公害、インフレ、狂乱物価等々世の中は日を追って住み惜みになっていく。いつになったら住みよき日か。この難局を克服して十月から本月にかけて各地で盛大に琵琶演奏会が開催されるのは誠に心強く頼もしい限りである。琵琶の会と云えば東京などでは有料の会がボツボツ多くなっているようだが結構なことである。何十年の芸歴を持つベテラン揃いの集りをいつまでも無料公開しては琵琶の権威にもかゝる。琵琶の会かた(無料)の会かた一般に軽く印象づけられるのは自らの価値を放棄していると思われ、それが何千円もする御時世である、琵琶演奏会もこの辺で有料に踏み切ってはどうか。

故船木吹水追悼 十月六日昼秋田市児童部・秋田琵琶連盟。本能寺一水会秋田支部。送別伊藤 母常盤一小畑 父乃木将軍谷 船木清水 三成の最期一佐々木美水 西郷隆盛一鈴木明水 荒城の月一新開須水 石重丸一保坂遼水 新撰組一竹内信水 吹雪の敵一渡辺楨水 戦艦大和一星野雄水 (録音) 白虎隊一故船木吹水 羅生門一酒田池田青水 橋大隊長一石川泉水 別れの国歌一新瀉中野片水 乃木大将一鈴木岳亮 巡礼お鶴一鶴岡奥山敬水。辻有水 山科の別れ一熱海梧水。吉野落一松井灯水 竜の口一東京高橋梧水。

各流派 十月六日昼名古屋市中区中合同演奏会 小企業福祉会館、主催中部琵琶連盟。湖水乗切一水谷浩水 伏見の吹雪一清水旭照 沖繩魂歌一交信旭紫 小野訓導一中西甫水 竜の口一今泉旭玲、松浦旭翠 月下の陣一橋谷胡舟 鴨川の露一谷本旭観 生門一坪内旭鳳 西郷隆盛一谷津壯水 勸進帳一久世旭扇、杉野旭勢 白虎隊一丹野純水 吉野山懐古一湯川旭鐘 新撰組一阿部勝水 竜の口一長谷川旭鶴 大徳寺一志水旭城 井伊大老一奥村慧水 平知盛一北九州佐々木旭助 本能寺一大阪東憲水 大楠公一京都矢吹旭美津。

テレビ、ラヂオ 九月十二日夕五時NHK 陽江、兼子旭昭衣川。九月二十六日同時に柴田田舎の浦。十月十日同時に石坂鶴明白虎隊。水藤五郎小督(大紋藤巻旭陽)各氏放送。又九月十六日午後三時朝日テレビで平山万佐子女史「川中島」の一節と洋楽併演「ラブ」を放映

筑前琵琶旭会 十月十九、二十両日福山全国大会 市民会館 (次号詳報)

鉦水会 十月二十日逗子市立図書館心流演奏会 館ホール (次号詳報)

正絃会 十月二十日東京銀座交詢社秋季演奏会 ホール (次号詳報)

(予告)

○錦心祭一水会全国大会 十一月一日(金)午前十時東京銀座ガスホール。東京本部の外金国三十七支部の代表出演。

○京都琵琶協会十一月定期茶話会 十一月三日(日)午後一時会員田中鵬水氏宅(下京区八条通西大路西入上ル、電話三三三〇三五一番)。欠席者は事前に御連絡下さい。

○京都琵琶協会秋季演奏会 十一月十七日(日)正午京都東山安井金比羅宮会館。協会員の外東京、新潟、大阪の名手協賛出演。

○彦根旭城会演奏会 十一月十七日(日)午後一時彦根市民会館。主催林田旭城女史。会員の外名古屋その他の名手協賛出演。

○大和流琵琶吟演奏会 十一月二十三日(休)午後一時高槻市富田公民館。主催家元山崎光楳女史

昭和四十九年十一月一日発行(非売品)

編集者 植村 稟 水

発行所 高槻市津之江北町一ノ二番

電話 〇七二六(八五)六〇五一番

究を発表いたしました。未だ研究中のもの
でありますことを附言いたします。

音階が七段音階とか五段法とか云って図
表にすると簡単なようでありますが、その旋
律の実体は実に複雑で、採譜に困難を極める
ことは前述の通りであり、演奏者は長年の訓
練により習熟し、感覚的、経験的に身につけ
てはじめて、琵琶楽の旋律に生命を与えるも
のであることを強調いたします。(未完)

註「律旋系、陰旋法(都節音階)」
には詳細な説明が附記してありましたが
紙面の関係上やむを得ず之を省略いたし
ました。御諒下さる。 (係)



二代吉水錦翁

徳(二)

小田原国尊先生を

東京 坂本 錦道

大正から昭和にかけて薩摩琵琶にとつては
最大の興期で、正派はもとより帝國琵琶
中派や錦心流の抬頭、これに並んで筑前琵琶
もあなどり難い勢力を増大、世は挙げてブ
ムに乗った時期で、琵琶界には色々な機関紙
や雑誌があった。先づ正統会報を始めとして
椎橋松亭氏の「琵琶新聞」、「水声」、鈴木嘉
平氏の「錦の心」、水藤枝水氏の「紋界」、
谷暉水氏の「谷のひびき」、佐藤岳洋氏の「

大絃」、梅沢弘道氏の「琵琶芸術」等々相当
数のものが存在したが、当時の琵琶人口と云
うものは之を計る統計数字はなかつたけれど
も推定数百万と称せられ、この愛好層の数字
に支えられて斯くも多数の専門的新聞雑誌の
経営が成り立った事が如実に実証している。
このブームのトップに立つ錦心流の奥伝以
上の免許者が六千五百人を超え、雅号授与の
漢字が無くなって誰も判読出来ない新漢字が
作られるという笑えない事態に迫られ、同
流幹部会に於て免許漢字を重復して出しては
如何という議題も出た。兎も角、中沢錦翁氏
が大正十五年十月東京歌舞伎座を借り切って
名人大会を開いたのだから、想像も出来ない
発展振りであった。それは東京に限らず全国
津々浦々と云つても決して過言でなく、海外
植民地の樺太、台湾、朝鮮、満洲等にもその
浸透力を発揮した。

話は少し前に戻るが、大正三年頃池田政徳
(天舟)、辻三寿夫(東舟)、川端光志、松
田虎之助、中山三三、鶴岡敏文の各氏、当時
帝大や中央、慶応の琵琶愛好書生が中心とな
って無絃会を創設した、これが今日の正統会
のそもその発端であるが、越えて大正四年
能勢雅晴(西田長祐氏の師)、須田綱義(関
口竜城氏の師)等の有名弾士が上京して琵琶
界に活を入れることになり、無絃会は発展的
解消して新たに正統会の誕生となる。会長に
島津長丸男爵、副会長に福本日南氏を推し、
名誉会員には海軍大将日高荘之丞男爵を筆頭

に海軍中将級の将星五、六名を据え、評議員
に八代為斌、村越進、能勢鉄矢(雅晴)、須
田竜翁(綱義)、鮫島宗尊、岡田尚徳、幹事
に池田天舟、中山正良、辻東舟、木佐貫南満
野村嘉一の各氏が就任するという豪華メンバ
ーを以て薩摩琵琶の本格的発展を企画し、順
調なすべり出して大正九年に及ぶ。
小田原国安青年が中央琵琶界に進出を試み
たのは、同師がやつと三十才に達して間もな
い大正九年の初め頃であろうと思う。同十年
四月発行の正統会報第二号に掲載された記録
によれば、この頃より演奏の記録があり、更
に文筆活動の一端として「時代精神に触れよ
」と題して所論を発表し、当時の琵琶界に対
して真向より大上段の構えを以て斬り込みを
開始した。

さて、この会報を散見して行くうち、古豪
のひしめく中央琵琶界に突如出現した血気の
弾奏家小田原青年の風評が早くも話題や記事
の中心となって来た。その頃正統会が弾奏家
や一般愛好者二百人に対してアンケートを行
った事があったが、この内七十名の方々から
の回答が掲載され、色々な注文や特に目に立
つのは新進小田原青年に対する熱烈な支持や
若干風当りの強い評も一、二あった、興味の
あるもの若干を拾ってみると、
○松田茂幸氏「小田原君の弾奏振りは未だ名
人の域に達せずと雖もその熱誠な態度には
大いに感ずる、確かに聴衆を酔わしむるも
のあり、凡て芸術は聴衆をして感動せしむ

るを目的とする。

○山口莊太郎氏「弾奏は厳然たる態度威容を
もって本会の特色を発揮するが肝要、錦心
流を真似る足立氏や、態度を崩す小田原氏
等は模範的ならずと存じ候。
と云う手厳しい回答もあったが、これは多分
小田原氏の弾奏がたまにクライマックスに
達すれば琵琶を抱えて跳躍、恰も天馬空を行
くが如き熱烈奔放なシーンを非とする者も一
人あったが、大多数は之を是とした。

○久保田知明氏「弾奏に際し極めて熱心且つ
元氣ある態度を希望仕り候。野村、小田原
氏等がその一例に有之候。
○深沢輝吉氏「吉村、足立、須田、能勢、永
江、池田政、小田原の諸氏を希望す。
○高山専氏「吉村岳城、西田岳仙、林鶴殿の
三氏を入会させたら貴会も盛大になる。
○青木通氏「何れ劣らぬ正派一流の士を得た
る、他に之を求むべからず、能勢氏の老練
小田原、野村氏等の熱烈なる、他会にその
例を見る能わずと存じ候。

○脇田貞国氏「ある歌を限り毎回弾奏者を変
えて順次弾奏せしめる、又洋服を着用して
弾奏するは薩摩琵琶の尊厳と対照せぬ。
○小堀隆子氏「辻さんのような落付きのある
琵琶弾奏者が、毎回「武蔵野」ばかりおや
りになってはいるのは何故でしょう。
これも仲々面白い問である。現存されている
辻先生は当時「武蔵野」一千回演奏の悲願を
たて、弁慶百本の刀盗りにあらねど、その鍛

練の凄まじさがうかがえる。又此頃小田原先
生の鍛練の一つとして私の聞いた話であるが
「台湾入」の「國中の民も兵も慟哭せぬはな
かりけり」の節廻しを、十日でも二十日でも
何千回となく、所構わず自分で心から納得ゆ
く迄誦い続け、四辺の人は氣でも狂ったので
はないかと疑ったと云う。確かに芸道は生れ
ながらの天性もあるが、如何なる天才でも努
力なしで天才たり得ないと深く考えさせる。
大正十一年小田原先生は三十三才を迎えて
弾奏者としても一流の地位にのし上り、一方
同年五月には内務省造神宮使庁第一課に採用
が決定し、先生自身も生活の安定と勤務の傍
ら琵琶の研究をする人生の分れ嶺期であった。

狂酔亭漫録(第百五)

大坂落城異聞(五)

古 谷 竟 水



本稿大坂落城異聞は当初一二回程度のもの
りて執筆の処、枝葉の問題に遡り意外の長編
に及び恐縮するが、茲に太閤一代の黒星とし
て信用を失墜して人心の離反から終に豊家滅
亡の遠因となった豊臣秀次の事は、世に知ら
れた事実乍ら矢張り言及する必要あり、茲に
その概略を史書より要約して記述する。
豊臣秀次(一五六八一―一五九五)秀吉の甥

初め次兵衛、のち孫七郎と称す。豊臣秀吉が
その先主織田信長の遺將柴田勝家滝川一益等
と不和となるや、天正十一年正月秀次、一益
を伊勢に攻め、次で四月賤ヶ岳の合戦に従つ
て功があった。同十二年の小牧長久手の役に
は徳川家康と戦って大敗したが、同十三年の
紀伊征伐及び四国征伐に戦功あり、近江二十
萬石を領し府中八幡山城を居城とした。
次で十五年の九州陣、十八年の小田原役に
功あり、織田信雄の旧領尾張及び北伊勢を領
す。此年陸奥九戸政実の叛するや、会津城主
蒲生氏郷と共に乱を平げ、奥羽の地を巡検し
て境域を劃し賦役を定めて京都に凱旋した。
時に秀吉に継嗣が無かつたのでその十一月
秀吉の養子となり、文祿元年正月には左大臣
に進み、秀吉百年の後は豊臣氏を継いで天下
に臨む事となった。然るに文祿二年八月秀吉
老後の愛子秀頼が生れてから、秀吉の秀次に
対する態度が冷かになり、当初秀次に譲ら
んとした天下を、今度は五分してその四を譲
る事に變え、又将来秀次が円満に秀頼に天下を
譲与する方法に就て苦心の末、秀次の娘を秀
頼に配せしめようとした。

秀吉秀次の間に斯る溝渠が出来た以上秀次
としては力めて行動を慎むべきであったのに
秀次の暴戻は益々世の同情を失うのみであ
った。例えば文祿二年正月正親町天皇の崩御に
當って秀次は諒闇中屢々近郊に出遊し、相撲
の興行等の外三年九月には叡山に狩猟を行
う等不謹慎の行動が多かつた。

且又殺生を好み妊婦の腹を割き或は北野詣の聲者を殺し、或は死刑囚を自ら手を下して殺す等、当時既に殺生関白とさえ称せられた。斯る時に秀頼が生れたので、秀次の地位は頗る不安となり、巷説評説相次で起り文禄四年七月の頃から秀吉との不和説が伝えられるに至った。秀吉は依て秀次に異図無きの誓紙を徴して一時は事なく治ったが、此年更に秀次が意図を企て、毛利氏と懇親を結ばんとした事が現われ、秀吉大いに怒り秀次に命じ伏見に來り辯疏せしめんとした。依て秀次は自ら伏見に赴いたが秀吉面謁を許さず高野山に入るべきを命じた。

秀次乃ち剃髮染衣の姿となり、七月十日高野山青巖寺に入った。秀吉は朝廷に対し秀次を廃すべき事を奏上すると共に、諸役の動揺するを戒め、高野山の木食與山上人応其に命じて秀次を監視せしめ、次で七月十五日福島正則等を遣わし上人に命を伝えて自殺を迫らしめた。秀次は豫て期したる事として山本主殿不破伴作等の從者五人と共に自殺した。時に年二十八。使者乃ち秀次の首を携えて秀吉の実檢に供え、秀吉命じて之を三条河原に棄せしめた。ついで秀次の妃妾侍女二十九人も皆三条河原に刑せられた。

しかし秀次が学問を好み、五山の僧徒を會して詩會を催さしめ、古書を集めて朝廷に獻じ、或は公卿に贈った等、興学の氣運を助長せしめた事は少なくなかった。併し藤原盛高が一度招かれて字を講じ、二度と応じなかつた。

た処を見ると、矢張り何処かに性格上の欠陥があったのを看破したからであろう。

以上の文章の中で秀次妻以下以下の悲劇が記されているが、此等の人々の墓が現在京都の瑞泉寺に遺つて居り、之を畜生塚と稱しているが、この由来を摘記すると、

畜生塚。豊臣秀次が秀吉の怒を受け、関白の職を削がれ、文禄四年七月高野山に放たれ次いでその十五日に切腹を命ぜられその處従山本主殿、山田三十郎、不破伴作、雀部淡路守等も亦自殺し、秀次の首は伏見に於て秀吉の実檢に供え、三条河原に棄首した。秀次に妻妾等の数甚だ多く、幼児等を合せ約三十人もあったのであるが、これをも捕え八月二日に三条河原で殺し、秀次の首及び幼児妻妾の遺骸を併せて、河原に墓穴を掘って投げ入れ、その上に塚を築き石塔を建て、

「秀次悪逆塚。文禄四年七月十四日」

と刻した。当時これを畜生塚と稱し、顧る者も無かつたが、行者猿慶といふ者之を憫み、草庵をその傍に結び菩提を申つたといふ。

慶長十六年角倉了以が高瀬川を開くに当り荒廃を悲しみ、別に塚を営み、石塔に刻まれた悪逆の二字を削り、その上に六角の無縁塔を立て、江戸幕府に請うて一寺を営み悲周山瑞泉寺と呈した。この塚は今日に存して人をしてなお哀悼の念を催させている。

この子女処刑の情景は、古書や歴史物語に種々記載されて居る。秀次の妃妾其他の女人達は観念し乍らも深い悲歎と恐怖に戦ひ、併

し夫々高き身分の者として外聞上の面目を慮り粉黛の粧いも清々しく、身には錦繡羅綾の晴着を纏い、念珠を手にして屠所の羊の足取りにて死出の旅路に赴くのであるが、刑場は三条河原の西側に青竹の矢來を廻らして設けられ、刑吏は囚人を一人宛西方浄土に向つて坐らせ、別に罪科を宣告するでもなく、囚人が観念の眼を閉ざると見るや、紫電一閃、身首其処を異にする有様、中にも幼児は刑吏に向い、痛くない様に斬つて下されや、と頼んで首さし延べる者もあり、見る見る間に三十人は斬殺され血河屍山の有様、血臭は鴨の河原に充ち溢れる次第である。

物見高いは都の常で、多くの市民は矢來の外から此の様子を眺め、餘りの惨さに卒倒する者怒号する者、泣き濡れて狂乱し時の為政者を罵る者等数知れず、やがて三十人の死骸は一つの穴に投込まれ、其上に畜生塚の墓標が建てられて処刑は終了したのである。

併し此の惨虚なる処置は、上下国民の感情に影響する処甚だ大きく、秀吉の非人間的人格の地金が天下に露出され、庶民は固より有力大名の中にも秀吉を軽蔑する氣風起り、やがて大坂の陣に多くの離反大名を出し豊臣の天下も滅亡するという大遠因を作つたといふ事は争われぬ事実で、何の時代にも権力者が不徳の暴挙を行ふ事は天人共に許さざる事と深く銘記すべきである。

俊寛僧都らの

平家打倒謀議の

跡を訪ねる

辻 旭城



なだらかな山々に囲まれ、鴨川の清い流れにうるおり京都は、遠く平安朝から江戸時代末期に至るまで実に千百有余年間の都であり、同時に芸術、政治、文化の中心地だった。特に琵琶歌にある平安末期八百年の昔、平清盛ら平家一門は榮華を極め、壇の浦に滅亡するまでの戦乱の中に、美しくも哀しい歴史の絵巻を繰りひろげた。中秋の一日、筆者はこれらのことを思い浮かべながら静かな京の街々を散策し、六波羅密寺、八坂神社、平安神宮を経て鹿ヶ谷(へしがたに)への順に歩いてみた。

市電清水坂で下車して西へ約二百米に真言宗六波羅密寺がある。平安末期平忠盛がこの寺に軍勢を止めてより、清盛、重盛に至り、広大な境内には権勢を誇る平家一門の邸館が栄え、御所から五条大橋を渡って六波羅の幕府へ、身の榮進を計らんと権勢にこびる公家達の贈り物を積んだ牛車や、ひきも切らず続いたというこの寺には、藤原、鎌倉時代の木像が多く、特に清盛の座像は有名である。

東大路の市電添いに祇園祭りで名高い八坂神社は、朱塗りの西楼門が鮮やかに鳩が石畳に

遊び、静かな境内に祇園町の舞妓のかしわ手が一ツ二ツ聞こえる。本殿前の拝殿の横に「忠盛灯笼」がある。

五月雨の或夜忠盛が、祇園女御(きおんによこ)の許へ行かれる白河法皇のお伴をして行くとき、灯笼の灯に映じて鬼のように見えたり、た義を被つた油注しの僧の姿を、忠盛が思慮深くその正体を見極めて法皇の御感に預つたこの灯笼はその時のものと云われ、白河法皇は忠盛に、最愛の祇園女御を賜つたといふいわれがある。

その祇園女御を祀る「女御塚」は、八坂神社境内を抜け円山公園の枝垂桜を右へ廻ると芭蕉に囲まれた小高い丘の上にある。女御が産んだ清盛は白河院の皇子であるとも云われその出生は歴史の謎に包まれている。

女御塚から円山音楽堂横の細い地道を行くと「双林寺」の裏に出る。双林寺には鹿ヶ谷の平家打倒の謀反が破れて鬼界が島に流されたのちに帰洛してこの地に庵を結んだ平判官康頼の供養塔が本堂左横に、又此地に庵住した頓阿法師西行の供養塔も並んでいる。

双林寺から東大谷参道を横切ると、直ぐ長楽寺への長い石段が続く。長楽寺には建礼門院の供養塔や画像などがある。建礼門院徳子は平清盛の娘で高倉天皇の中宮となったが、寿永四年(一一八五)三月二十四日、壇の浦の舟戦でわが子安徳天皇に死別し、源氏の兵士に助けられてこの寺に出家した。然しお布施となるものがなかつたので、西海の敗戦よ

り身命を塔けて持帰つた安徳幼帝の、未だ移り香の失せない御直衣を幡に縫つて寺の仏前にかけた。この幡は現在寺宝となっている。

長楽寺から智恵院、青蓮院等を経て平安神宮へ出て市立美術館の近くに白河院址の石柱が建っているが、この辺は白河法皇の離宮があったところで、この地に俊寛僧都の法勝寺があり、法勝寺の九重塔址の石柱は附近の動物園内に残っている。又法勝寺の外最勝寺、成勝寺、円勝寺などの六勝寺の名は、現在の附近の町名となっている。

この法勝寺で俊寛をはじめ西光法師、藤原成親、平康頼、更に後白河法皇も交えて、権勢の振舞が度を越えてきた平家を打倒する陰謀を企てたのであるが、多田蔵人行綱の密告により発覚し、首謀者の西光法師は斬首、藤原成親は備前児島へ配流の後惨殺、俊寛、康頼、丹波少将成経らは鬼界が島へ流罪となつたのである。

言 (26)

豊臣秀吉の母 水呑百姓木下弥右衛門の妻だが、その子藤吉郎秀吉によつてこれほど出世した親もないだろう。大政所(おおまんどころ)とは撰政関白の母の尊称には違いないが彼女の特称とまでなった。今は廃寺だが京都大徳寺旧天瑞寺墓地。「天瑞寺殿預修大如徳主従一位春岩宗大姉」の宝塔がある。

新作 大原御幸

大野 惠造 作詞
鈴木 流泉 作曲



人の世はこれ
燐花一朝の夢なりけらし玉葛
身にぞ纏える白露の建礼門院に
見えんと大原に御幸ありにけり
思いきや 深山の奥に栖居して
雲井の月を よそに見んとは
涙を拭くも忘れ萱
破れし庵に入り給う
平氏万霊の位牌あり
想い起すはかの早朝の修羅の海
一門 亡魂 頓生 菩薩
見渡せば

残んの花の色もありぬ
此処こそや実には寂光院の法の庭
光の陰をば惜しまなん



第二十二回 八月十一日昼大阪楽奏
琵琶を奏しむ会 狂。当日は出席者少数な
がら閑静な緑に包まれた丘上庭園、池の鯉も

長閑に遊泳して正に別天地。石童丸・黒田武
士・田中敷水 慟哭の海・巨星墮つ・天草四
郎・松原絹水 川中島。恩讐の彼方。竜の口
・佐々木寒水、藤本錦掌。外に詩吟数題。

錦心流一水会 九月十二日昼夜東京上野
城東支部公演 本牧亭。敦盛・谷暉水 七
卿落・高橋訓水 木村重成・松尾昭水 白虎
隊・羽賀灯水 彰義隊・山田峰水 本能寺・
谷津豊水 伊豆の御難・小川纏水 楠の下露
・北沢来水 巡礼お鶴・荻野甲水 舟弁慶・
山口速水 恩讐追分節・宮原璋水 大津浜の
黒船・松居風水 竜の口・石崎禊水 小栗栖
采水 川中島・松本蓄水 道成寺・鉛谷六水
西郷隆盛・小山田賞水。

鈴木流泉氏の 九月十五日十一時東京
琵琶吟詠舞大会 日本橋第一証券ホール。
各流派琵琶二十六題、吟詠吟舞十八題が上演
されたが琵琶演奏は新しい試みとして一曲を
十分間以内限定して東西の名手が覇を競っ
た。又会場には鈴木氏の手に成る雅楽琵琶、
平家琵琶、薩筑音借琵琶、現代の薩筑琵琶の
外鈴木氏苦心の作新型各種琵琶器や挽等が陳
列されて興味を引き廊下には各方面から贈ら
れた数基の花輪、生花が飾られて会の雰囲気
を盛上げた。六時半閉会。(琵琶の演奏者と
曲目)花紅葉・和田豊泉 城山・桑折蓬泉
大楠公・佐藤旭天紅 竜の口・三田村錦霞

戦艦大和・井坂旭良 平泉・青木晴城 隆盛
・緒方晴舟 葉児・篠宮優水 大高源吾・木
原綾子 異国の丘・山田洲鳳 道成寺・広瀬
翠紅 鉢の木・大井錦淀 石童丸・神戸田中
敷水 坂崎出羽守・新潟樋口禁水 富樫の涙
・京都植村真水 羽衣・同田中鵬水・矢吹旭
美津 壇の浦懐古・同平井春嶺 鴨川の露・
大阪山崎旭草 那須与市・箱根押川旭葉 菅
公・水藤五郎 曾我兄弟・小島旭清・木村旭
桂・井坂旭良。佐藤旭天紅 千曲川・杉山雅
俊 迷語もどき・西郷天風 湖水渡り・田中
旭嶺 新作大原御幸・会主鈴木流泉、外に吟
舞春望・永田泳晃・竹下翠風 講演・松田静
水等。

藤巻旭鴻 九月十五日昼東京千代田区農
演 奏会 協八階ホール。主催旭鴻会、司
会(元宝塚)波路千尋。一茶・藤巻旭祐・絃
旭石 山吹の夢・清田旭茜 安宅の関・旭映
旭鶴、旭神・絃旭草 秋風故郷山・林田旭石
・絃旭陽、旭史、尺八入 玉藻の前・藤巻旭
彰・絃旭鴻 湖水渡り・藤巻旭陽 荒城の月夜
奏曲・正絃旭堂、旭粧、旭坊、旭山、旭節、
旭史、旭章。大絃旭彰。小絃旭陽、琴尺八入
天の羽衣・林田旭史、内田旭章、藤巻旭星
・絃旭堂、旭粧、尺八入 吉野山懐古・谷口
旭節・絃旭鴻、旭彰、尺八入 菊水の旗・大
阪木庭旭山 桂・錦びわ藤波桜華 二〇三高
地・北九州佐々木旭坊 義士の本懐・田中旭
嶺 王昭君・原島旭粧・絃旭堂、旭坊、琴入

唐人お吉・藤巻旭鴻。絃旭陽、旭彰、尺八
入 若き敦盛・神戸柴田旭堂 天目山・東京
浅野晴風 曲垣平九郎・大阪山崎旭草 新琵琶
奏お江戸日本橋・黒田節・二十一人合奏。

日本錦古流新町支部 九月十五日朝十
創立十八周年記念大会 時群馬県新町福祉
センター大広間。吟詠一〇三題の外琵琶吟川中
島・十五人合吟。絃針谷錦古 同姫ゆりの塔
・井田玉風 同鳴呼さがみ湖・二十一人合奏
・絃四方田錦隆、針谷錦古の三題があり盛会。

薩摩琵琶 九月二十二日八戸市商工会
青森県大会 館大講堂、主催最上穂洲氏。
東京正統会から清川風舟、仲川秀邦、須田誠
舟、八束一峰、坂本錦道、地元から熱海梧水
鈴木岳亮、最上穂洲諸氏の熱演が続き生の琵琶
を聴いたことのないという多くの県民は各
市町村から続々と集り流石に広い会場も割れ
んばかりの盛況を呈した。

日本芸術琵琶 九月二十二日昼東京西新
柏会九月例会 宿柏ビル。門琵琶、お江戸
日本橋・山崎錦幽 常盤御前・関口修水 本
能寺・石田脩水 小曲隆盛・錦幽 衣川・青
木晴城 羽衣・山本隆水 鉢の木・若林杏雨
千曲川・杉山旗水 塚下の賦・日原錦楼 西
郷隆盛・長谷川錦舟。以上弾奏小宴の後六時
散会。尚次回は十月二十日同所にて開催予定。

錦心流関西 九月二十二日昼大阪天神筋
新進演奏会 朝陽会館、主催小川吟水氏。
金剛石一合吟 文福茶釜・山田、桜田 月下
の陣・増田 白虎隊・金寄靖水 山科の別れ
・小西雨水 石童丸・植田豊水 恩讐の彼方
へ・会主小川吟水 城山の月・吉田、川上
常陸丸・松岡玲水 川中島・名古屋安江弘水
本能寺・同丹野鮎水 竜の口・同福島澤水
伊豆の御難・大阪中山風水 松の廊下・広島
江原錦和 寂光院・京都平井春嶺 坂崎出羽
守・大阪東憲水。

老人会 京都待賢学区敬老会総会が九
琵琶慰問 月二十三日午後二時から同校講
堂で開かれ宇都井会長や有識者挨拶の後アト
ラクションに琵琶三題(薩摩本能寺・平井春
嶺、筑前堅田落・梅原旭濤、錦心流富樫の涙
・植村真水)が事前解説付で上演され約三百
の老人達から万雷の拍手を受けた。

彼岸会法要に 九月二十三日昼大阪富田
琵琶公演 林市の安養寺で首記が厳修
され琵琶四曲(衣川・水谷旭甫、小栗栖・辻
旭城、関ヶ原・石橋旭嶺、神崎与五郎・光旭
仙)の外詩吟、扇舞、狂言等が奉納され多数
の参詣者を喜ばせた。

琵琶 九月二十九日東京交詢社に
コンクール 於ける日本琵琶楽協会主催の
本年度首記が催され審査の結果一位座間桜水、

二位佐藤晃絃、小堀世津、三位中村洲心、山
田洲鳳、木原綾子諸氏が栄冠をかち得た。
敬老会に 九月二十九日昼大阪東住吉区
諸芸慰問 老人福祉センター、主催大阪琵琶
同好会。石童丸・佐藤旭竜 城山・中山瓊
水 井伊大老・養老駿水 小栗栖・辻旭城
屋島の誉・宮之原聖水 姫ゆりの塔・石橋旭
嶺 大楠公・寺尾旭吉栄 白虎隊・中山風水
恩讐の彼方へ・田中敷水 勘忍袋・光旭仙
の外詩吟、扇舞、奇術などを区内五百の老人
達に楽しい半日を過ごさせた。

青柳吉之助 琵琶史劇創始者井坂旭
琵琶史劇舞踊会 良、同舞踊会責任者佐藤
旭天紅両女史協賛に依る首記が十月三日昼東
京日本橋三越劇場で開催され日舞剣舞その他
四十四題の内「日蓮大聖人」外九題に数氏の
左記琵琶人が特別出演し盛会であった。琵琶吟
桐一葉・松村旭奎 曾我兄弟・小島旭清、木
村旭桂。立方二 井伊大老・木原綾子 菊の
礎・須田旭綱 大盃黒田武士・佐藤旭天紅。
青柳吉之助 都落ち・押川旭葉 戦艦大和の
最期・天野旭風 淀君・井坂旭良・立方殺陣
各一 名月逢坂山・鈴木流泉 日蓮大聖人・
井坂旭良、佐藤旭天紅。立方三。

京都琵琶協会 十月五日(土) 昼一時
十月定例茶話会 会員平井春嶺氏宅。伊吹
戸田、田中、梅原、安住、矢吹、牧、古谷、